



情報通信基盤整備事業推進検討委員会

望月静馬 委員長 (大間)

ブロードバンド環境を構築する選択肢としては、光ケーブルを引くだけでなく無線を併用するという方法も考えられます。ブロードバンドそのものを否定するのはではなく、どのようが重要で、例えば商工業で、福祉関係で、さまざまな形で使用範囲が広がっていく。そういった検討をしていきたいと考えます。

NTTドコモから「3・9世代携帯電話を利用したLTE

【第2回委員会の概要】

化や「光の道」構想の方向性について説明を受けました。「医療・教育・行政などに利活用することと一体的に整備する場合に限って国の補助制度を利用できる」「ICTを活用した先進地域の事例」などの説明を受けました。また、県情報政策課長より、県内の光ファイバ網の整備状況や次期高度情報化基本計画に「ICT利活用の促進」「情報通信基盤の整備」などが盛り込まれることについて説明を受けました。この委員会では、特に利活用の議論が重要であると方向性を確認しました。

【第3回委員会の概要】

町内各分野の有識者を招き、ICT利活用の意見発表と意見交換を実施しました。商業分野からは「さまざまなサービス提供が考えられるが、採算ベースにのせる必要がある」「町内事業者が参画するためには情報提供が必要」「特に若い世代の人口減少が大きな問題。定住人口の増加を目標とする施策の一環とならないか」などの意見が挙がりました。教育分野からは「現状の情報通信環境では不便をきたしている」「子どもの安全や海外研修先との交流への利用ができる」「インターネット講義の利用で過疎地でも不便を感じない教育環境の整備が可能」などの意見が挙がりました。

観光分野からは「インターネット

広がり続ける都市部との情報格差、そして町内でも発生している情報格差……。これらを解消するために町が進める情報通信基盤整備事業（光ファイバ網整備）について、そのあり方を検討する川根本町情報通信基盤整備事業推進検討委員会（望月静馬委員長・以下委員会）の第1回会合は昨年12月22日、本庁会議室で開かれました。出席した委員からは「光ファイバーを『何に活用したいのか考える必要がある』」などの意見が挙がりました。この委員会は、現在までに4回開かれています。

委員会では、超高速ブロードバンドの利活用、整備方法、提供サービスの内容などについての検討をはじめ、「総務省『光の道』構想」・「3・9世代携帯電話」といった国や社会の動向について有識者などから意見を聞き、委員相互の知識の共有を図っています。

町では、委員会での検討結果を議会や住民の皆さんに報告・公表し、今後の議論へとつなげていく考えです。

【第1回委員会の概要】

総務省東海総合通信局情報通信振興課長より、ICT（情報通信技術）を活用した地域活性化

【第4回委員会の概要】

医療・介護・健康分野での利活用について、有識者から説明を受けました。介護分野では「地域包括支援センター、ケアマネジャー、介護、福祉施設間をつなぎ、情報共有することが必要」「情報共有の手段としてICTが有効」と説明を受けました。医療では、国の規制緩和の方向性としてインターネットを利用した診療の可能性などについて説明がなされました。

飛躍的に進化を続ける情報通信技術やブロードバンド整備の現状と展望について、委員相互に意見を交わしながら情報を整理し、正しい認識を共有したいという側面を持つ本委員会。この会での意見を踏まえ、町では「情報通信基盤整備」の方向性を、より具体化していく方針です。

講演会 「光の道と自治体の情報通信基盤の整備」 本庁会議室 2月1日

「光の道と自治体の情報通信基盤の整備」と題した講演会は2月1日午後1時、本庁会議室で開かれました。(株)インターネット総合研究所・藤原洋代表取締役所長を招き、町民、議会議員、役場職員など約60人が講演に耳を傾けました。

講師の藤原さんは1光の道構想について2来年度から開始される国の補助制度について3最新のICT業界の動向—などについて丁寧に解説しました。

「国では、情報過疎地域が独自に整備するブロードバンド環境について補助をする制度を検討しています。ただし、単に情報通信環境を整備すると言ってもダメ。医療や福祉、教育、行政サービスなどの

向上のために整備するんだと国が認めてくれないと補助はされないんです。これらの分野に、いかにして活用していくか。その部分の議論がとても重要になります。国は2015年までに、なるべく全家庭に情報通信整備を実現させたいと考えています。ただし今は以前より若干トーンダウンし、『できるだけ進めたい』という感じになっています。待っていても、光はやってこないんです」と述べました。

講演後、参加者からは活発な質問が飛び出しました。「光と無線を併用した整備の可能性」「設備更新時の助成制度はあるか」など、踏み込んだ内容の質問が多く、関心の高さがうかがえました。



(株)インターネット総合研究所
藤原洋 代表取締役所長



□委員会の模様から。熱心にメモを取る中原緑委員。
□2月1日の講演会にて。約60人の来場者が会場を埋め尽くし、講演に耳を傾けました。



特集の「その後」

未来への投資

すべての人にブロードバンドを

昨年発行した広報紙の中で、最も反響が大きかった11月号特集「未来への投資」。町が進める情報基盤整備事業の展望や可能性について、皆さんに投げかけました。

昨年12月22日に始まった情報通信基盤推進検討委員会(以下委員会)では、町民、議会議員、国・県担当者、有識者などさまざまな分野の人が膝をつき合わせて検討を重ねています。第1回から4回までの、委員会の模様を振り返ります。